日用心法鈔後編 上

口 g
1303
4

9仁口
1303
4

此本は身を治め家業を知精志て家と齊へ家来けんぞくをよく
書ふと世界第一の樂と世界第一のわまま」といふ事をかき
たる本なりこれをよく行ふ人は其外の樂は自然ふ天より
授けあふなり其時の樂をば傳の樂とも世界ぐるみと思ふ人はかるべ
ずよむべし

平かな
絵入

日用心法鈔後編

上中下

天保九戌歳七月

東都下谷金杉
壽福軒述

壽福軒

自序

此本は身を治め家業を知精し家と齊へ是事
を知りて妻子眷属をよく養ひ安ふ暮すが
世界第一の樂といふ事なり。
芸居花ゐと好き酒宴礼奉を樂むは傳の樂
ばかりず者この種あり夫武
士公は樂をもて樂とおもふまず禮義正愛慎を
深く家業を治め精志て身を治め家と齊へ家来けん

ぞくゆよく養ひ。安ぜふくすと。樂をとしまふ。
是ぞ樂むべき。其の樂は自然と天より授かるふ。
其ぞの樂をば。樂の樂をとひふ者あり。と云ふ。
後義正慎を深く。家業大ますふ者を治め家を齊へ。
家業けんぞくとよく養ふべし。是ぞ世界第一の樂
とす。是ぞ世界第一のやまととするあり。是ぞ万能
より。一ぜ万藝より。一職とひふ。ぜとれて。第の姫を
ぞくるべし。歌ふ

○樂をと。性ふ来ぜ。ぜとそ。各とくるしむ。かくきとぞまを
○是ぞ。ぞ。ぞりかくげまそ樂をせずかせぐかぐぶ福徳ぞあり
○正直ふ家業大事ふ。法度とせるんが。ぞ拙樂
是。各の。奇とよくぞつていを第の姫を。とるべし
又仏。神。聖賢の教ぞ。ぞ。ぞ。

書籍に従えるわい。聖賢のおしへの読むひて
えざることもあるものなり。とまるよりてせい
けんのおしへに従えて。心のわるに洗ふべし。其聖
賢の教へに従えるわい。かやうに草本よりだく
と奥儒に至るべし。可ふ

○新やまれよごとい。乃ふのうへども。その拙に従すぐ人ふ

○えてもあるに。我身のためにあれば教へどこうれたかしとうやまへる人

○よき道と浮世の道とをすることいりでもすまる借金はふち

凡例

一 前編の文段又同じ言葉同じ所多く出れい。前後の道理
ふよりて出しれ。繁重の所ハ洗用捨ヤさるべし。又づさん
ことつけ虚言清濁にかゝわる次第の事もハ高免ヤさるべし。
唯洗ふ叶ひたる所に限て。其除ハ捨置ふべし

一 初め壹冊ハ高ひの事実し。是ハ商人より。粗まもてかく本ある
ようりてあり

一 ある人のいはくはまりことむ。くどくあて。いらぬ事実しとハふ。
是ハむかしたる愚夫児世ふ教へる事ふまむ。ことむ従つくあて。
くどくいと係で。道理のまからぬ事ハより。智者学ふ迄ハ一言半句と

以て。世ゝ末後の道理を。悟り玉へた。田夫野人ゝ方様ゝ。素りがさ〳〵。
委敷道理ゆつめ。又なと〳〵以て。せざまだ去まがた〳〵。こまゝ
よつて。繁重多〳〵と。あるへし〳〵 相奇ゝ
○生碑ゝ相いふ。ゆうゝ。くどけをどい〳〵ぬ耳へもいまさの俗

天保九歳戊七月吉祥日

東都下谷金杉

壽福軒眞鏡述

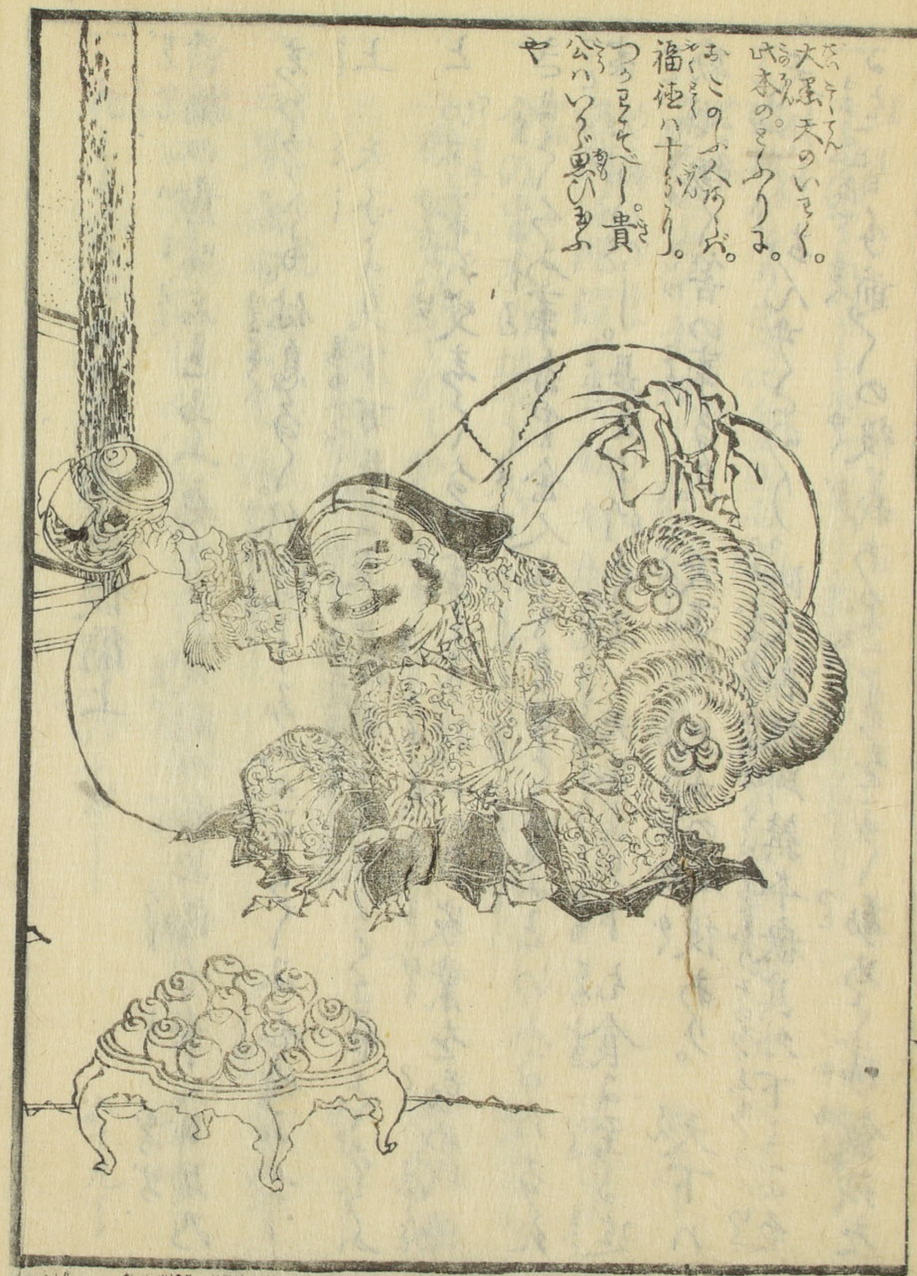
日用心法鏡後篇上目録

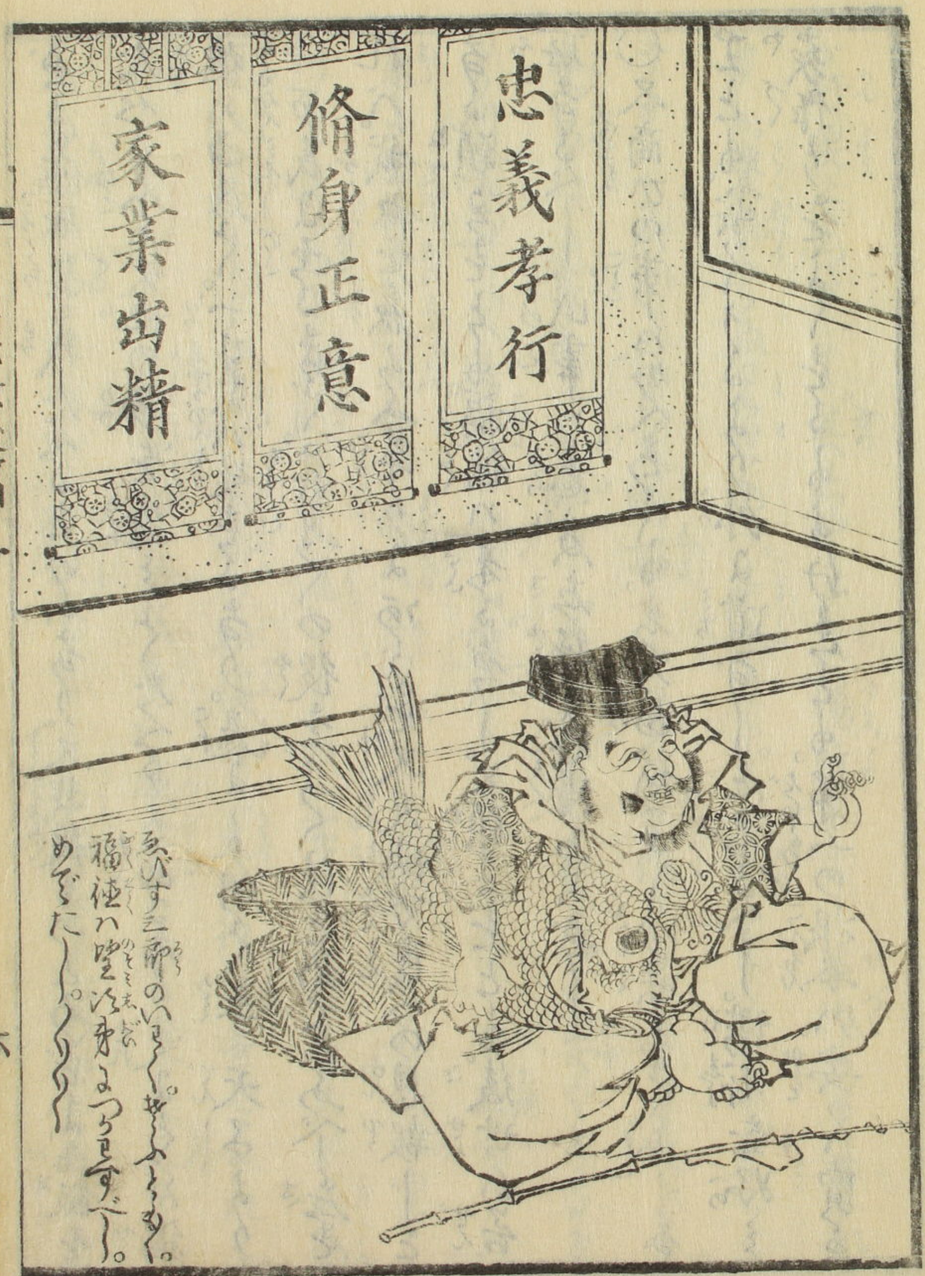
一 我口ゝ我働いて氣たべ物でゆるぬといふ事 八丁
一 商ひゝ安く賣より外ゝ道ゝ〳〵といふ事 六丁
一 高く賣と。怪ぶ人ゝ大高人ゝ。ふるもぬ事 九丁
一 高く賣て氣とゆるゆ〳〵たる人の事 十八丁
一 ゆるゆるとよく〳〵て。安く賣氣いづまも。繁昌の事 十六丁
一 途中ゝてそだてくれ。素漬たべたるもゝ 四丁
一 吾性ゝ安く賣て氣とのよくゆつたる人の事 十七丁
一 かいゆ〳〵と安く〳〵賣て安くうる氣ゝ果とよくゆる事 十八丁
大丸屋。沼田屋。佐野やたゝ〳〵や。山本の事

一うくひすのめしゐとくぎす素良菓の事　廿三丁
一盗賊かたりさへに公四垂公のきき者に既ゐのあとぬ事　廿七丁
一商人ゐよつて奏殺しかいごろしといふ事　三十丁
一六阿弥陀詣で大欲ゐ房のもゐ　四十三丁
一金の生木の樵ゐう又是ゐ毒と菓とあ事　四十八丁
一二枡で毒ひてかゝゐりゐうたとし人の事　五十二丁
一工夫の金の生木の事　五十四丁
一三界無安八苦充波の世界といふ事　五十七丁
一仏ゐ有りてもくひのゝをするかしゐ若いたへぬ事　五十九丁
一花ゐりだんごいろけうくいけの事

日用心法鈔後編上

前編の意味忘るゐ勿れ。人間の勤め働く事ハ日月乃
ごとくなり。休息なく。仏道しゐ心ごとくゐ。仏得ゐ心べし。
上　天ふより。下万民ゐ至る迄。我口を人ゐくらせくゐ。ゐ
といふ事ハ変ゐくゐ死事ゐり。我口ハ我家業を勤め我働
きゐくゐ事ゐ中。余人ゐくらせくゐ貰ふといふゐハゐ死
事と知るべし。是ゐ心ゐくゐ。上　天ふより。下ゐ食ゐ至る迄
勤め働く苦の事ゐり。　天ふハ　天子の御役あり。　天下ハ
天下のおんゐくゐり。御大名様御旗本衆其外下ゐゐ至
る迄。皆ゐ前くの役義ある。こゝをよく勤めく。御飯ゐ


大黒天のいきく。
氏神のこふりよ。
おこのつ人ばつば。
福徳ハ十ばうり。
つつ豆そでし。貴
公ハいろぶ黒ひまふ
や


忠義孝行
脩身正意
家業出精
えびす三郎のいろ〳〵せんとくも。
福徳ハ望次第につつ豆すべし。
めでたし〳〵〳〵

為るを。家口を我たべるといふなり。又我役もつとめどころ。田飯をたべる人は。天地の物を。盗みくたべるよ。當るなり。夫よりくは福徳いるなく。一生貧乏をする者なり。是よりなく。上天子より下万民より。をるまぐ。其身くの役をよくはたとあてらるべし。左をれば。我口を家らん斗りなのらず。又天地万民への恩報じとする願らずとも。福徳は来る者。又願らずとも。後世の苦取るべし。此事は急度左様よ。心得ある者。

○又商ひの事は。かくもくも。ろ物ゆゑ。珍味ろく。ゆしるなり。とも。安くうるより外に道なし。と云べし。場所を好み家作りをするもよけれども。第一の根本は。安く賣るが肝要と云べし。其ろやうに。場所もよく。家作りもよろれども。繁昌せぬ世あり。是他なし。ろ物ゆゑ。たくさんうるようなるよりも。又場所もあしく。家作りもろくとも。繁昌する家あり。是他なし。ろ物をよく安くうるより。又場所もよく。家作りもよくろ。下賤らんべ。鬼に金棒大丈夫なる商人といふべし。行ひともあるべ。うるより外に。道なしといふ事を。よくろべ。是仏聖人の教へなり。商ひ繁昌の秘傳なり。悪き根性をなるれば。安くうるべし。若高直ならんべ。家は滅亡と云べし。且まろ物は安くろく。現金うりと心得べ。かけうりは至

くあやうし。たとひ高遠なるとも。跡をくいのぞん。取遣る間遠ひが出来て大損となる事あり。もつてのほか。かいくよりて。差引あり。各〻手筈あるべし。又うを斬るよりいく高くうらねばならぬものなり。又うけうるものせ将棋ならぬ所もあり。是等へ論の外なり。如うく動くもべし。門並家並なる。同じ売沢山あり。拵らべ。ほたもろ物を見て取撰どりもるべく。安く買んともとめあるべへなり。いかを買人へ。安く買たり。賣人へ高くうるべかるべへ。人情の常なり。也右に引べき筋の事なり。いかを門並家並なるもろ物なるべ。安くうら拵べ。盤間せぬ苦なり。如勘定さとまべ。安くうらうるべ。其ゆえ安く丈もろく。安くうるが商ひ上手といふ者なり。又買手の上手もろもの。又金銀の威光を以て。右へ左へ取まわすべ。安く買べ。安く賣べ。安く賣もあるべ。色〻手段あるべ。手段なるしとやうへ。俄智恵の考へなりといふべ。既は碁将棋と足るべ。下手の目から見まべ。是はまけ碁。是はまけ将棋。勝べきなるべと思べども。上手の目から見る時は。随分と迷道もあり。生る道もあり。碁勝将棋とるべ。下手の目へ。よい手は見人ぬ者なり。商ひも。商ひ上手なるべ。道なると利徳あるなり。又商ひ下手なる見まべ。ふけ道な

と見る。手智といへども。然れども其人の運不運ともより。因縁禍福ともする事あり。又勤へするもする事のまゝ隨分と立身しく。商ひ上手とまりく家を齋へ。家来けんぞくを。よく養へべし。いづれの道なりも。上手へ下手へあるものなり。是教を見て。よく動く。上手へまるべし。是ハ家業の事よろこく。盛衰の分れが上手へ下手へ。稀ハ大損大恥とまるべし。是ハ怠度智恵をふるひ力をいたく。考へ分べし。脱ぬ拙ぶ出たる人よ。家もよし。身世財もよし。亭主の人柄もよかりしが。唯高慢なる斗りぐ。誰も買人なし。毎日く遊んぐくらし。終に身上を仕舞。裏店へ引込ぐ貧乏

なるぐらを教えしぶまも決まらず高て今の主人へ引込ぐまゝ。これたる。かやうの人を幾人も見る。偽り殘念なる事なり。是何あるまゝ。是迄とも。一割二割五割等の利を取らんと。只ふとり起りし事なりとゝのも方指る人系りがゝ。何ぐも利を取くらんとちめ。偏屈なる。唯高慢なる。大なる欲心。中もとゝひく高ひすぐし。ゆるぬ者なり。天勘定ちがまくもなるぬのれども。ちハまる欲ゆまくく。もろ者の入智り。新成なるをよしとゝのべし。平角なる。何となく拙る物もあるく。夫つゝのくく。山なる。又乙世が用しけまバ。代小者なる迄なるだくさする

隙なく、ぶるまふ所の徳用あり。又天の冥加よりはけしく自然と福祐ありて商ひ上りの金もうける人は是を考へべし。欲深の愚者は是を知らず唯欲の深いだけ遠ざかる。ちやだく遠ざかる。

知るべし

ちやだく赤坂傳馬町に。大坂屋長右衛門といふ薬種やありて。知る人多し。此家の亭主。拙者日用心法抄をよろこび。夫より隨分と安賣にて。勝手しのべ。大ひらさんざやうまく勝手も追々豆腐のおもふ成る代ふ者にて。面白しとよろこびこうろくしたまつれ。線香抹も元直よりやすく。儀さうまる毎日く。一筆完うまつれ。元直段さうくも線香抹茶

く。此銭一文を百廿四文ゝゝゝ

是を知る。商ひ下手の。大欲を智の人の是を知るとも。唯仁智の人の是を知る。又安くうりくも。身上のうるぬ。徒労ハ。現量以て知るべし。商ひ繁昌の所ハ安くまく。売る物もとし又身上も限くとくるる。是安くうりくも。身上のうるぬ。ちかうこうり。是をうりく。所まり勘定斗りなからど安くうるべし。徒るる安く得うぬハ。何ぞうふとるぞと いうて。欲深くまくを前ハ斗り思ふてまぶこうし事有て。駄賃がいつぶるるがいつぶるる。金銀の利足がいつぶかると。勘定をるうぶ限く無限が登り来く。安くうるを安うるまる。是ハ安の得を勝ハの勘定なり。大抵を系れハやぶれいるれ

ども。夫をうくハ人をあがまくを知るを無おハがまくをする。終すれうりうるうるまる。費賃をうるるまべ。舟上仕舞より外ハ。此あるを此方のうるハ。徒方ハうるまるども。先私のつりがうるハ。徒ありがるるれバかのうるを有りあるど。外くの安いをまく。別るるハ何も安買を安くせるるるいのあるぬ。是かのうるぬ。さまるぬるるの事なり此方ぐるまハ。先後ぐるもうるハかうるるるれる筈なり徒るべ不和合といふのなり。夫をうくハ。あやぐハ。ぐせぬ乃理なり。一を思るうるハて徒方のほりるるくくも安くうるべし。又勘定の通りぐるも。是者なり。よくぶがをやめく。欲徒るるるハ。又。あるる物をうくまくを安くうるハ。天

地の理なり。佛神の情なれば。是より遠ふ時は貧乏窮氣を殺し。是より近ふ時は福德安樂なり。此事を深く考べし。智者是を

うんがへ考へ

○おろかなる人を忠といひ。高利をとる人を義といふなり

○商賣は忠義にあたゝぬ。檀那ばかりにて。子孫繁昌

此二首の教を。よくよくおろかなる人をいましめ高利をとる

ぬすみする安くうるべし。たとへば大勢買ふまゝに。自然と家繁

昌もすべし。是は商ひの事なれども。士農工商ともに。心

をくるべし。また人をいひがゝし。何人ぞかぎりなど人の爲に忠義

のなる。此人は家は繁昌するがゝし。此理を知らざる人は家滅亡

多くしく。油斜のなりぬ人と知るべし。仁心忠義の多き人は。

侍。よい生家。よい神道者。能い医者。よい大工。よい町人なりなど。

何ぞも人の爲。よい指しもの人ぞ。なるべくは人といふべけれど。

我身滅亡なりとなる人は。不実者なり。仁公実義の人なり。

変あるく油斜もなくなれど。唯一通りの実合なるべし。世の中に

人をだまし人をたぶらかす事をなす人あり。又人の物を

借りて。かへさぬ人あり。是皆大悪業者なり。体のよい盗人なり

深く家にて交る人なれど。此人は未だ貧乏窮困する人なり。変

あるく近所へ入るべけれど。何の辛人指をだまして。なるべく。

正直なる。よい強の。悦び多の事なり。ぶぐべし。おろかなをよくおろかく。

安くうりく人招いはびを家はとまべ。左招よ心得るべ。ねが
るまどことも。天よりと福徳はかはけるる。天地神明のくま
〜るまるるまこはかり〜も悪死事るし。はまをあらと踏揺〜初びるる
べ〜。其内るへ底ると。芸功がしへく者〜。大繁昌の方へおもむべ〜。
年月を経るに随りく大福長者とるべ〜
○行志の栄人思ひ人の為。よりん事のかどを注みくよ
○我為をるとへ家年の為るべへの為こそ。家為とある
貴下先生の種俳るに曰。何よりも。高慢自慢驕高ぶる悪し。味噌の
味噌臭死と学者の学者臭死へそ〜をるん京羽二重へ脱目
も能色も白く。婦〜るれども。白目の物を百廿目とるぶると。

よりへよりの。亜度のるへが瘢るりとを指人も希るり。又河内犯
二重へ色も悪く。仇目もあらく。不器量ものもとも。指欲の物を。
九欲るりと。ひく知れば。亜の安いるかまとく。愛とる。へもの
まるあるりとへるを。強ひば。奢り高ぶり。定亜度より。ず〜
でも。高〜みうけると。人の愛敬を。失ひ。天の憎こを。よく。福徳
をそとるへ。何事よりもと。高ぶりく。人の物をよけいり〜
ぐらへ。悪事の中の。大悪事るり
古語よりく。欲へ。全をを以く家と為我へむくぶらざるを
以く。寶と為とへく。何ども。人指の物を貪ぶざるを以く
寶と。心得たりも。法海安心。此上へあるべらと。此貪ぶざ

る物は取るべし。寶と為るといふ事をよく考へるべし。考へると心得あり

心學老呑草學文よりいはく。商賈が繁昌させてくれば。百姓がかの

ようなるも。人がかのようなるも。同じ世の中の安くうまく。又貴人高

位の人がかのようなるも。掛軸をいるとも。花を生りとも。酒ト指し。安くて

色。離奢の繁昌をすると。いひしが。もしかるに。何ぐも高利

をとらんと。合理せずと。合理いらずと。人の目をかすめぬやうに安く

うりさへすれば。繁昌をすること。遠からず。ぶつかき根性を

なれば。思ひ切て安くうるべし。唯ある者のかるる物。

こび。人の買ふまるをまろらんぐえ巡ぐらひようべし

喰人猫を取次て中ると。ちうべし。動定してくれ。あるあるひるれ

ども。夫ぐも。追く身上ようくるべと知るべし。不品なる物

なり。智者の商ひ上ようは是をなる。是者の高ひ上ようは。是を知

るべうるべ。若又高慢ようなるべ取給家の滅亡とならべし。な

ぜなれば。ある慢ようなるべかのようなる人なり。かのようなる人ぐも

けるべ。何を以て。利徳を得んや。うるべ怪んぐ居るべ。

まらぬ者なり。此理を動くるべ。拙の人なるれば。一切の人ぐ。

うりやうを。たのしまるべ。油のようなるべ。酒のつぐべ。食べ

もろの人ぐ。砂糖の目方。其家ようなるべて。大遠ひあり。真高

下を動くべく。其家の繁昌。不繁昌をなるべ

くらく安くうる家へいのまして繁昌しつゝ人身上もよろしく
又ろの物をうりもくらく高直なうる家へいのまもふんぞや
うりて貧乏なり是ハ人間の勤ハ知まぬまなり。ろろ
物をよくろく安くうる家ハ貧乏ぐ。ろろ物をうりくろて
高くうる家へ福祐よりあるる者なる貧乏とハ合点
の行ぬ事なり富貴と貧乏とハ何所の監和ろまぐ
是ハ勤怠なかりし。かゝらどろく。天の冥加を知らく人の為
をもとるも。又福徳の来る道とろべし。是よりて人ハ
隠ろと安くうりくゝ前ハ。倹約をろく味ろい物を食
うるい悪物をろく。ぐろとべし。是ハ篤実の智者でろく

ろハ。出来ぬ事也愚純不実者のろる所ハあらど欲深の智者ぐ
ろくろハ。ろろぬ道なり。何卒ろく勤ぐ。篤実の智者の為
る乃式。通りろ人福徳も安ぬも。ぐ乃ろよりろ
又途中ろく。蕎麦をろ石菜漬をたべんとするろ。ろく人のん
ぬて居る張やうなる取ぐ。ろの事ぶ果ろく。安くろろ。ろま
し。人人のこいら取家へろの事ハ。高くろく味ろ一人ろ
悪安いろるを。ろく知りく。ろのことろろ。人のろくろハ
る。安い家へいのまも。お麁ろくろく。今日ハこゝまらぬやうを
ろり。一生ろ。ぬのくろ事ぶあまり。勤怠斗りなり。かゝらどと
安くうるべし。若又欲深く根性悪ろく。安く得う

ぶぬ人は。よい子世を持ぬぐら。得ぬ人多。よい子世を
物を持ぬぐ。うりかい せもどる古く。もとる人多り。商ひ
をひろく得せぬ人也。一生貧乏する人也 殊念 至極。此上は
あるべうもど麁ょ入り 細ょ入るべく。深く勤めく
或人の咄ょ。酒茶馬屋遊の。居酒屋の女房ちひける者は。
此程ょ。毎日。酒の酔人。素遊半り 銭おひよ多く。くぐ銭
まくを。聞く居るは。いやな事や。此面倒ハ中くるくがて。
此事を見よ いくども。せん程より 拙家業ぬれば 今更かめぐ
べくといふ。そてぐ。せんくるぬる。酒ぬりとも。安くうりく
申上を此ぬ。裏居へでの引ぬるべ。笑ふるんと思ひ

夫より酒を安くうりくるべ。弥く商ひ繁昌ぬく。身上も益く
よくぬりく。金銀多くためく。後ょハ。早く居居ぬく。安
ぬくぬ世ぬとぬり。実ハ引算遊の。仕ぬぬれども。安くうり
ょ半りょ大繁昌ぬく。身上迄よくぬるべ。奇妙不思議ぬ
る者也。人くけうの部人多べ
何ぐも。商ひ。安く買ぬく安くうるが。商ひ上手といふ
者ぬり。安くかいぬく。安くうるハ。商ひの人をいふ
ぬれども。金ぬく居の事ょあ。わるぬ。是ハ手ぬ。精出 仲間
ぬり。精出 仲間ハ。金銀を拵くて。身上をよくぬる仲間ぬり
此仲間の流ハ。取ぬりょ。百遊ぬ。此遊ぬ人

ゐけまつば利分は其中よりあると知るべし。又商ひする家のいとぬ人は買ものゝ其所より其所へ買物を買ひて来る。又遠の生れる人多り。たとへ高直なりとも良物ゆへ買ひまかりとる。大ひなるゝ其人の勘定不足も出まじく大抵とる事なり。是よりして安くうりとる。取物なれば若ゝ取れべし。何ぐもかい人の六ヶ敷人よい客と知るべし。ろう物も。吟味せずに直段の高をおまりかまらぬ人は。まゝ人を指らく。抵をかける人なり。是よりして安くかいふ者と

知るべし。金銀をもとうとくろうべし。金銀の威光をゝく。安くかいふ安くうべし。銀金の威光をいく。安く買べし。又向へより買くとゝ頼まる事なり。その時は別合よく買べし。向ふの売物を叩き落すとあらば。此方よりも。いらぬ物をれば安いよりしてかい置なり。結局人あるとも。ろくしたもの。其所の人くの了簡次第外なりかまれぬ事也

又元濱町佐野屋長四郎。長谷川町たるや庄兵衛。拵い物。呉服屋あり。此元は。銀金買よくく。又現金賣なり。銀金買とは。いのまつ。呉服屋よくも。安い。よい売物ばかりなべ。

今ゝ買出しく来る。又現金にて安くうるゆゑ。此方へ
きたる事あり。又上州道より毎年毎年佐野の
端物を江戸へあまた持来りてうる人数あまた其者どもの
中よりうる。江戸一流たる。絹布あり。此商人共。うま絹の端物
持かへりこれ。だちもも換又ある物あもうるくされ。安くく
も。今のよ来く持帰るが利方なり。こまてよりて安くく
貴賤て呼ぶ。此絹布のうま絹を。佐野屋たちや
拵ゝ今銀の威光を以て。現金にて安く買出く。又寒さ向
ふ時分に。又取出く。安く賣拂ふ。こまてよりて。江
戸の小商ひする元い。上州道へかいにて行く。佐野屋

たちや等の。売へ行く。かい来べし。此方へ来くかゝゞ。
利方なり。先第一旅銀もいらぬ。ひまも使はつくべく。おひる
よりーとつのく。江戸中の小商ひする者ハ皆佐野屋たちや
や。買出しに行なり。此家ハ大繁昌なり。是なるも外
より細ーー。唯金銀のいらぬを以て。安く買出く。安くら
るよりく也。又現金賣。現金賣なれば。盆暮五日目よ。かき
ぬー。かけ元の世話なり。かけ元の世話がるけまべうけたを
きたちきをひ。大きなる面白。商ひなり。かけへ少くく
も。氣のいたらぬ大丈夫の商ひが。絶しなき者なり。此の商
人元いなり。ものや。居了簡。うけたまりたー。居返

江戸大伝馬町
大丸屋呉服物
をうりしてい
安くうれるよ
よ大繁かいま
さ〳〵大こん
ふや〳〵の本

答よ。あり。一問答

今現よ大傳馬町。大丸屋の商ひ。かくの通り。現金買よ。あく

又現金賣り。盆暮五節句よ。かき屋。かけ売の世話よ

かけだをまての氣ぜひも。又ろ物もよくあく。安く

くるあよ。日く買人ちびくぐ。大繁昌より。今現

よ見くろ。ふき。ろめくろ。一切の商人。元ばけを

かんぐ。五人。こまこのごふくの氣ぜひ。あきるのもかくのごとくなり

江戸日本橋通り。壱丁目よ。山本加兵衛とく。菓子安くう

る家あり。江戸中よ。作ろ。ぬ者もり。宇治信楽伊勢駿

河等の。土地場所をお撰く。代物を吟味致し。正直よ。安

くうるあよ。城よ大勢かつよ。来く。先番後番とかくをあくべく。

抑江戸ふたり。三ぶのようき者八。一日待くも。かくとどるよかくるく

ろのあり。城よ大勢のかつ人より。又安のよあ遠ろ。ぶ

菓子を一行かつく。あくめ。ろ。ろ。二百目あり。外

の菓子よくかつくこまこ八。大方が百七拾目。百八十目也。百九

十目あまべ。上この所より。然るよ山本八。ろ。二百目あり。た

めしくく。外の菓も此通りよ安ばるり。夫ろよ大繁昌

よろく。一日よ。何百両とのふ商ひあり。皆現金よあく。面白ば

商ひあり。とくも。商ひ致するとべ。山本大丸屋位ばかりたと

ひや。河内屋等の。如きの商ひ。ばく。者より。皆長家の

もしん たのもしき ある人 大将分の者の心立仕方ばかりよ。ある事なり。商ひ盛ひろく せんと。思ふ人。能く動くべし。惡角其家の主人 大将分の者が。心を用ひざるべき事なり。能く工夫

又かけ賣いろいろ。やうしゃ。かけ賣まつくに。所在家へ滅亡とまらべし。物は安く売と現金賣と。五得べし。安くさへうれば

ぜんきん 現金ばかりよ。人がよく かいつよ。きっと。利。坂本四丁目 よ。河内屋治兵衛。萬實よ。よく 内福の商人あり。現金 よ安く かいつ。又現金よ安くうるなり。此所 皆人が よろこんぐ。かいよ行なり。此河内屋へ。何物まつくも掛売

年一高く賣なり。皆人安く買よ行也。其通 此者へ。うの物を安く買く。仕合なり。ろろ物がよくく安 いろ。きんぎんとり近道の商ひを。河内屋一人ろくすくなり。外 の商人へ。ばりくもるきがでく。是何も。河内屋から。かい よ。まくもとて。新こへ。せる孫ども。ろろ物がよくく安 から。皆ろろこんぐ買よ。よくなり。桃季物いろねども。人が のがら。道をるまとの人程なり。桃や櫻が花をよくよ。ろ さまとて新こへ。せる孫ども。人が大勢よくよるる若い商人の 方ろう。買よ。あくろされと。頼の世孫ども。諸人が。かくよ。ろ 何ろ。ろろ物がよくく。安いからの事也。外よ何も細

し。はは内ふく。ろろ物をうく。安くうけまでも。才上
い益くうくるりて。時大ふ方ふ用達し也。今現ふ。昇り才
上るり。是ろろあ就くろくろく安くうくも。身上のうくく
ぬ。ぬ安ぬうるり。一切の商人元。はは河内屋治兵衛の仕方
を学のべし。大ふ吉く。商ひ仕るぶ。ぶの行るり世くあり
かくれ人くのべし。かやうるる人。はふまいくもあ。
べし。其現渡をうく。其人の仕方を学のべし。
道かどくらのうがくさ　嘉海屋川寿の仕方　ねんや又ふ
こうぎかんぶくうくべし　お金銀のある者ふ現金ふかまるぬ。安
くさ人うまぶ。かのふ者るや。まるまりて自くうふ商ふ
ぶ出まるるり。又盆前大晦日は世話るし。かき出ざし本

かくるる及ぶぶど其日くの利るを及く。大きる面白く商のる
り。安くうるくふ人のうくくぶ事をもる者ふ在家のぶさり
るり。はは世ふ安掠。床来ふ急ふ家居取るるべし
はは戸抜ふ狂ふ現金ろりが。宜ぬるり。火事盗難。盛衰多
きあるまぶ利ふ細くくも現金賣ぶふろ。さるり。かけ
うりふ変ふくく。銭くくぶうくぶど。あまぶども。左掠ぶかりるも。銭
しが元家あり。時ふ家方。はは出入の飛抜ふ居るも多り
ぶし。生ん現の売りが。ふろし。さるり。是ふ掠別の事るり。
その外の売ふ現金賣と。ふ得べし。其ふ得ぶ居くも隨る
と。かけうりふ出まる者るり。況やふ得るき者どもふかけ

賣ぐらやとゝのゝく。大損とる事あり
馳走の袖引といふ事。鶯菓飯の隣より郭公茶長菓と
いゝ。看板を出すゝく。外月かゝの。店びらきおびたゝしく
かりく。何ぐもの金ゆけと。見世武仕
舞ふ。隣の菓子やの亭主。舞ふ。なまるど
繁昌ゝたる。見世武。なぜやゝ。ゝる。ゝ事ゝ
私もいろゝと通りゝゝまでゝ。ゝらゝ
ゝどもやりゝ。なぜゝひませぬといゝ。ゝハきゝ
ゝやゝまる客もゝでゝ。かけゝトサ。是ゝ
ゝいゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ

ゝ事ゝ。ゝ武通ゝと。ゝふ人ゝ。世の後ゝ。ゝゝ。ゝゝる
ゝ。世の中の流行教ゝ。ゝを付く。益不益をゝゝ。
少しの事ゝも。大德武ゝゝゝあり。昔ゝ草ゝ
ゝ事を聞く。大事をゝゝゝゝ

まうく。かいよ来る。又高くうまとび。けさより何やまうぐく。
ふてびかいよ来る人多。此事をうくたゆ。是べ。店
勧合く
初松ぎ。かきく本紙ふく。安くうまとことあらけまども商ひ
わ。たゆ名ともふ人がくとの人あり。是も私のいひうち
あり。かけうり世務ばうまとあり。又高くうら務べきうち
ぬ家あり。然まとども是い搭別の事多。此本ゆいまちへ世
間無例の私の。ちなく。本体の知得の取を。ゆまとまで
あり。色々の掛引。人々の店了簡次第時をまを人合賣
買然もべき事。肝要也後くるべう。まるようく私も摘と思

ゆ人ゆ。此ゆを伝授ふゆ。店多用ふゆ。所経ふ当行遠ひゆ
漫を使ひあるく。まるとまり合ゆ事ふ。ふるくうらどゆ
松商ひの事をかきたる法ゆを。考へふるゆ。安くうるよ
り外ふ方なとうべう。又神明佛院の名ゆ安くうるよ
を授びゆ。此ゆ高くうるを。授ぶ人ゆ。寄加悪ふ。
来ゆ不仕合とする人あり。其ゆふ人商ひ繁昌のゆべきを
てゆく知べく。四の五のゆるべ
松も。高直ようく。高利を取するまとども。ふ搭つ銭
ゆくゆ。後も買ふ来る人多。かいよ来る人。ふけまべ。利ふ
もゆ。利ふゆけまべ身上仕舞ようゆ外ゆ。こまとようゆ

て安くうまること教ゆる也。安くうまくもの。商ひさくもとれば。こつこつの。多慢に出来る者なり。人あきなひ世をよく居くらんも。慢立夫の種なり。種がなくまこと。舟上仕事くるを外す。此事に有まきれなる道理なるまことも。毫角多く人なる死なる。寄まくして。格別の氣を付るのこと丈とも。死道ありや。佛君なの法を簡うけるつたし。

はくらくに有きなひの事なかりと思ふに大ひなる淺きこころ得なり。万事よくうして大入用の為なり。何ぐも我身の為多猪多だうまくに。仏神を憎まれ。諸人を憎まれく貧乏難儀する人なり。求に家を失ひ。身をあやぶと人也なん

でも。理の當然といふ生涯が大切なる通り道なり。何でも中道の。よい所を通る丈し。丈なるも。狂人の方へ。こゝを殺もとる。大ひなるこころ元なり。何ぐも。家身のひいき世間なる。生涯なるかくひをすべし。若家身のひいき斗をする人に。私欲強欲者なるべく。人面獣心の人なるべし。何卒我身のひいき。猪多猪多。ききなくすべし。我身のひいきさへ世界中の人と和合なく。世の中をくるものいと心安くべし。

又我身猪多する人に。私欲深き人なるべくの上を捨て一切の妻配に殺させがくし。若妻配をさせるべ。私欲猪多者なるべし。私欲多き人に。而後まい人なるべ。

べし。仁義の道をもつぱらとする人あり。出世の出家なる人あり。商人あり。あるいは高くうんとする人あり。不正直の人あり。奸佞にして油断なく盗賊かうりの頭だく。ちまたの張本人。仁義正直のふりをするけれども。こゝろ人あり。大悪黨と。札の付くる者。かくのごとし。況や正義正道。紙幣のうえとおもふ人。仁義正直のふりをして。叶はぬ道理あり。其後私欲。不正直のあり。人の上より立ぐらうと知るべし。たとへ家柄。勤日ふくしゅ。且人の上よりとも。後は不足なるとる人あり。たとへ又過去の因縁よりて貧窮孤独なりとも。仁義正直をもつて。一生を終りたる者也。たとへ

仰ひで天に恥ず。伏して人に恥る事なし。安楽快楽此上ひるがへるまで。何職何人よりまで。人を害するの心ふかきゆうみを致すべし。穿踰の心ふかきゆうみをもべし。此心さへなくば。人の用ひも。よろしく者。段々出世繁昌の方へ出むく人あり。仁義正直の心を以て。家業を出精をべし。是を大上吉の人といふ。安心福徳願ひまで者。来るべし。先よりもふ通り。是迄の處に商ひの事むりと思ふべしで。一切の事に。仁義正直少欲。知足を以て致すべし。無道の大欲に大ひなる悪事也。大損の道あり。貧乏難儀の根本也。此事を深く考へて。無欲清浄正直一偏に一生をくゝ

あるべし。始より人の通り。盗賊かとりぢうちさへ。慈悲正直心ぶかくて。頭よりあらがひしぃまんや其外の衆中ハ猶更慈悲正直ハふかくて叶ひぬ筈と考るべし。又人をだまさと苦ゝ思ひ居る女郎藝者。たいこ持等ハ至る迄も無性ハ金銀をかせぎ。人をだまし。まくぶをあけて取扱ハ至りて。あやまりふかへ川て損をとるなり。人をだまし人の物を唯とりたがり。強欲よりのけんとゝ考ることゝ中く左様よハ悪くらぬ者也。向ハ荒神様ひら。人をだまし人の物を唯取とハいへ女郎ハ事ハ変ゝ出来ぬと考るべし

○十返舎一九が六阿彌陀詣後篇ハいまく。日ぐらしへ歩る道のあるとき。ちゝこの小屋をたづけく。爆然かんり。名号の一軸掛かけ。香花をそなへ。昔一ぬきいまく。ひたいハたゞこ庵丁のごとく。眉間尺の法体せ。ゝかゝる。彫物の坊さま。そばだらけの机よかり。尚村の地蔵堂庵の勧化と。住寿を見りけく。びたりまる。年の比五十ばかりき。後家らしき女子とまりく。後家モレ尾の絶えるよ。はきませろ。一枚いくらぐ。ごぞりまを。ハイ一枚十二銭ぐ。たかいのんざまゝのかゝ清水の舞ゝ落さゝ。ハいふく。十二文上ませろ。そこへかいくびさま。先祖代々一切精霊。時若刻来居士。彫死菩提のため。そゝく家内安全。病息災。長命富貴を。祝ゝまゝと。かゝる。彫ハ

人の金銀ばかり
ほしがるものは
ぜにかねばかり
欲をもつものせ

當村
地蔵堂尾の教化

ままとりつくを【ぎぎ】ハミ、たりさ十二文ぐ。とんど長くらしい事
をうせるさる【ごみ】ホンニ女とらふのハ。あくどけちいが。めちち
まへごちりとあくさるよも。損をあくとうりませぬ【物欲】
さりきるかふ。あまへと。あくるうりさきるうり。まきしくが
ゐるうどそくご。角女中へ。物毎質素。もるがらハ。そ
しくどのやら家さならしいが。女ほうとの取帯ハ猶の事
始末をうく世話がうりませぬ。ちかしくハ。隣亭主の
あるる家さなるも。ちまるハ【ごけ】さうさ。亭主もたんとへで
ざりませぬがたらう七八人ハござりまと【家】そうふへまと
ちくまつり祇園祭りの氏子るら。鉾を車よのせく。ひうせうとらふ

者じや。ときよ。ほ商賣ハ。何をるるさる【ごけ】イとくまぐ商賣ハが
さうませぬ。ちくしも。ちるがくしの事ぐ。十四の年ふ。祝
意の嵩よ。つるあるとうをいくしまくく。ちくく二十八の年
眉をおとし。身まうホ当りく。ひとりの母を大切よるいりん
い。孝行を給しまちるぐ。今ハ黄金の釜も取り出しませぬハ
天道さぬがまぐほぞんぐ当い。但し誰ぞと。百遠ハるさ
まふ。何のほうさも当いら。早く孝行をかまくく。念頃な
男ハ沢山よありくも。こちるとうんひん。ふしのたくふるる人ハ
ごごうりませうと。どふぞこの旦那を見付けく金をたんとか
ちるとうしく。そくく商賣ハ。孫ふ元手のいらぬ物ぐ。直ハ高

くろうく。よくたちやる。あきるひがまてひと。思ひまもる。夫より
何商賣がよろうござりまもせろう

家や うく。あまへも。事よりの何
たら。どんる事も。仕業ぬ人じや。商賣を。初めるとる。
まんぐもようれうら。まろ物を高くまく。たんとうろを思ひ
まるるるら。かけうまる高く。物前が来くも書ーも。や
ちぐるよおやりく。きるるまで。そふまてらがろぎるちやりま
せう。

ごり ナニとんど麦をいひるとる。物をうりと代をとる
ぎる。商賣が出来るめろ

家や 夫ぐもえもの。からぬ。まろ
物を高く賣く。今を決しよ取ろうとへむーがよい。あまへ
ぎろう智恵がありく。世間の人へ皆三吉郎だと思ひく

居るとるの一寸の虫にも五分のたましいあり。夫こそ天照皇
大神宮が守りくござるめのを。おまへぐりり。笑ひひるを
させてくれるめ。そんるはまりるの事をいりてくるこどこぞ
よい。居さるの重くぐも。弟のく友まといろかるる事ーまと
まりく。おふくろぐるめ。世俗りるるがよかろう

ごり ホンニそれ
もそふろへまくーい年寄いきらいごけまぐも。世平ちめぎ
よ。とのやるる不孝氣る男ぐもとりを注ろりく甘ひちが
くの。たるだけハ。あもいま。後りとりさその金ぐ。きのこ男
よ。商賣させ一生たのまんぐ。ふらを注ぎり

家や そう甘く
ゆけばよいが。実際人の後家風ハ。お馬ゆきの馬と

いの。あてまのきぬ。下ものる。仏師のうらくて。仏さまと同じ事
で。拵よ。ふとりく。四五貫も砂ふら吾妻をひきまどうてあるく
やうな。風俗推ぐだまさまく。大切る。金銀をゑぞろうとものの
ろ。あ川ろまうの。

ごけ　あまくさんい。そんあるいるさるけまて
人ちひ馬よも。おとこあら。器量ふうぞくまハ。ふうろいうの
はとまてこ。ぐ遠来めうまく。石るのごうら。定めく色事ま
ハふ自由しく石るぐあろうと。當推量ちく。鼻の下の
長ひ情ハ。あそこうも。ろくるまい。いのからま
くくくくくくりませぬ。

家　ふるわどあまくハ。若い氣ど
夫ぐ一生の徳ぐもあろうぐ。親のある身へ。夫

でん。そまぬ。そんあまのうら情のぐ。ぐぐん。吟味儀の苦労ぐたくま
い。意角祝の氣を出とるが。夢行ぐうら。たとくとのやうる男
ぐも。一生身を任せく。まぐいの身の氣ろ。そとく落ちく。
あ氣ぐ。安儲さまるぐ。まそうるのぐ。

ごけ　ナニコてこぐ妻
もそんる野暮ぐやぐぐりませぬ。行ぐもうの旦那ぐ川
て。とまてるだけ取ぐ。はとハとくる。男ま素うろと。そまハ
ぐ通ろ者ぐぐぐりまと。

家　とまてハはきれさのぐ。
あふくくまぐひとり川兄のむぐるとくる。親も取るうぐ。お
もおろう。大ぐ妻情ぐ。むうハ行ぐの果であろく。とかく勤
ぐ者ハ。人をだまし情けく石るのぐうぐいろのま

るりくるも。そのくせをうせぬ者。夫の時分はおくまるーこのう
三途川のそこアの所へ。書よるごとくもいうことらふ事なる高
くへ。世活成まる人もるいり世活まる人がある。ふ
るの完場。身ぐも。かりくに墨そふる。白髪斗ぞちくべ。
うくまるの事へ。せぬのごうう。ありさよ機金をぎて者よ
ゆくどたくへ人ゐまくが物ゑ拵ふよ立流る形をまく。生くも。
毋親を供よ法まくくへ。悪。海楽へたまる人とるくへぬの。
男目がまいくぶへ。悪へかくらぬ。たとへ又よい花がかくりさ
取ぶ。取事だろう。さきく考くるものごうう。恵よ受おつくされ
くぶくるるさま。後ふへ。拵ものへ合ふるごさまれ。因果

と古血のかくさまりが生まくも。持く約所がまくく負いてく
とるりて。其ふ。身を死世とだが出まどまく。終ふへ粘
うり嚢とるふへ必定ふり。くぶくうくまくへ。事へいとぬ不どよ絶
くあくくと。赤後まく。ふまく別をあるさまふ人がくらぶ。
ありさ人よ。京の体草ふ分限者ありめうふ十のう人を越
てもいくりて。その拵びど死清家へ下りさる色兼屋へ。あけ
ここ毎日女郎蕩者を大せのありあく。大さくぶさまふ
相方と結ふるあくる者もまく。いくふまくも。武士肝心の
色事まへ。目もかけぬ。石部の堅吉金かぶと兼屋新造がお
まくくナントあーいりのぐ。此大正紙。あふいまくくぶりのどの

全くよりそろるのるり。汁女郎元の内ぐ。後ぞ仕方をつけてそろるされと。りどかーぐる内よ海よ多幸。山よ多幸。後ぞ。天窓のまん中よ空地の出まくさ元山とりて女郎人のたぞこ元。あーげもまくかろーけ。けもりを次ぐらいふまへるる糸どもの客人もそてちろぐ。三千との内ぐ男自慢ちるかう人るーぐ今ごろへ。あげらの亀毛く。なんちをくろうけ。うぐ元のとまるぬかうる見よ。あるちろけまぐ。なをりのてる六千あもるのかさあやぐ。うまれ付ぐ。玄黒用ぐ。さ川まいりの。仕切取よ長ることいの風俗。出うも下ぐ。麻ぐ嫌ひとりの者ちまへぐどこを取ぐ。あくかきのめそうといふ。ぐ

ちあるの人。長角雪人が。私の中よ。底心をとる不とる城を以ぐくもかねぐ。餐用ぐあるぬ其餐用のあるあるを附ぐ。歌さ行ぐ。だるるるく人ぐるる。せあくく声るりとも。よけれぐ。ホンニぬーの唄ぐ。とんざいさる声ぐ。あだる声だと。まるふ。ちりる。附ぐるも。仕ちうが。まるも出まぬ。大るるこぐ。ふりふりのふちうぐ。あまぐ唄ぐ。るくちうぐと。自身ちるる。るるがぐりてあるるるる不どの破獨ぐ。きんぐ。ぐるるるちうぐ。ちあらまるも世ぐどもまぐ。ぐ上の歌きちうぐ。死るまるぐ。田舎の爺さんよ。生ぐ。るるりうーふと孝行ぐ。ちる。かけるよ。外ぐるのとあをくんぐ。只素成せーら其内よ。只ひ法のくぐ。よーく。ちーく。病ぐちるる。魂

膳がありまもとと唇をそらしく。廣言をたるち。彼くその産
補へ出かけく。人がおどろさらぐまへ。委細かまうまどもとこ門こと
の方へよりて。物おもひあらげよ。彩を。ろうち中へ入てく。
だまりかんのく居もと。業の象。かの親仁ぐうんとがあく。コレきさ
まへぐつまこ。ろせそんろよふさいぐいるぞ。俗へ公庶ぬが
事よりらぬうと。のとまく。代九ふさまたくこぐりまもとぞふ
門ちやまび。おあけくあたろ一ものしまもとの陸國へ
京の深草ときのく。ちいさいとたまもこ。帰さあのこと
が思ひ出されく。月うさよ。むが。でたいよありまもこと
一個ひくあく。恋ひの思ひ。おもくよあらくくまけ

まび。親に酒飲ろ。押るよあちらく。そろくとたいう。姉
の事を思ふこと。たのりいたるう。きさまの。姉へ深草はるうと
いろ。附こんぐさかうぐぐりまもと。八月の年よろまもこ
て。今年でてうど十七年。息吹る。姉のく居る。終よ一度も
便りろ。去年伊豆屋の十河さが上方へかくの性
よ。深草の思深と。ろよ勧めきく公くく居ものる。たのさふ
の兄弟。たぐひの生死もあぐふどこんるよろるれくるまこと
思くび。いのそかるまうごろりまもとぞんまらく。猛のまのび法
大事関く。そふくとのくび個ふまののくむうへ小地面の一
二ヶ所も持く居さかうよ。意性を偽らくいうけ今へ父親へ

あく女一人をはなれの内うつす。たゞごろみまもと見る材くも妙機と
一所よ居てゝふ女さゝよ苦労ハさせまい物をと思ひ出すとたびごとよ
上方が恋ゝく婦人の居る所のお人だと思へばあるさも外
るゝらぬ世うよ。ぞんじまきと。うそ話まきゝ八百もいひく
くまとくあくまゝ物をまくく狂仁のひざよ。のくをうまてば
親にまきりよ。不便よ思ひ。夫ゝどまゝくゝ婦を憑しく
思ひるゝらけくゝ度そるゝ。身仕るまくゝ。ゝえ人仕まくのゝり
婦よあゝくゝ世ゝふゝと。九山が。もゝぐの婦よかゝを。事ゝを
をゝんぐ。身信の事を。かけ合せ其内九山が女もゝび
よ世てゝ。よゝろのさうどゝう。使の者ゝう。ゝ細をまくせけ

まゝ女も損料をゝゝく。ゝまを居かゝ。かゝくる
のゝゝん出ゝまくと。其ゝまく九山芸所くかけ出ゝ。女が耳ゝえ
まゝ。京の源草よ。婦さゝが居るとうゝ紙仕のく。夫ゝら
のわ世ゝけ。ゝるゝゝたちゝも元ハ地ゝぐ。大商人ぐあゝゝ
が。今ハ昔よ引ゝく。浅草ゝゝゝ。ゝゝくゝゝ。ゝゝ人のゝて
のゝゝよ。客人ゝ。ふゝゝんぐゝゝゝ

くらくらと上方へあがれてまつとんぼうのくく糸のほう家で
かるごごろませう。こまつ婦もいるまさの方よ。ありまとがそ、
年も陸年ちまりよ。のがりくちい。糸まとりの家へそま
つ〳〵銀ちまるあぐ。ちくまるへ。こまつ婦ちゝ母ら。豆腐母ら。芝居
もあり。いろくのこん世物もいるうぶどつぐこん世こつとぴけ
ちくぐこてまたと耳をとつとぐちまをかむ母ちる事をいく
ど陸戸へちぐめくの大ちまれば。糸まと銀草の百遠ひさ
ちよこ事もはちず。母銀へいちくのりが来くぐちくしどちく
むうへあるさ方まも夏母わどの。丹代ぐありしぶはまをあひが。
如能ちちひよまたちらし。人の美見もきちぐこそ。大身代を

ちやくむちやまくあげくのちくくちへ大名の借金をちく
ちくあげもちく。踊く紬さま。不自由ちまちく死ちまま
たぐあちちのこちくさくしのちきちちんぎ。兄弟の娘たげ
母をひちく。紬ぐひもいちさまちどせちこちとちちふちち
のむちちあどもをりやしい勒ちえげあまちしそのちちの
ちちぐあやひちくちくちませと引入るちちる。あちまま
らしく。ちちちけまぐ駅父ちくちまぐをちぐされ抜く
いちちやあちれるちちをきちく袂をぬちしまちしちと
菓屋の亭ちまちまぐ生しく。ちまちぶ遠留中の法ちへ金ちえん
ちぐ。ぶ母ちち結へ。祈けまちさ三百文持ちく来ちくちまちと。家来

へ取る世。ナレト一座の元中今母親の曲がらうとをきられさう世界人皆あの通り。こまてらる國元。むとあをを入りのさが今の吹しをきらいく。ようその事とへおめらとあ親の名だらぐ。二人の浪を女郎よ仕ようと。又お座の人のこうあく。あようと皆を親の一名ようあてる事也。今あれがとく。金根城沢山そうさまをくたら。終よ八夏祝よ長く。此元の父親の安うこ。時代を棒よふるへ。おまてこ事。是八先達ようし親喜ぶ極楽の東門ようのぞいく長く家敷内の拵びをやめる世んと。元山ヶ母の口をうりく。男をいうとおぐくうり菓拵びの自動の繁花のこ。長這笛をるあり。明日八早く

出来上がる。事をあきさう。芝居の三軒ばぐきの拵衣も変が人ようこ。母ようくりさま。コレ元山どのこうさのお袋の教ぐ。向後とまてうが。一名をたらくあまきたら。その礼ぐら。変ようて二分ようこ三歩八。たれむ変ようれども。其ものかあい所を。塩恋をるが。店見を用ようと。いよ者ようり。おうげぐ野へ出たる。死人同前の。三百両ぐ。ようこが人ようく。こまぐ國元へ人らまをとと。賊布の口をおりうとおあ。いりまてもさくくといとをこびあく。旅宿をさくかりける。踊よのこりさる。一座の面く。けりーや。たいこ持。事をを始めりけよ。とうまてく。コレちげ山屋のおふくろ。よういか

げんの。たちけをつくさまてこざるの。今年中も逗留ある
く。金銀を。まうけちらすと法ありの。大きをそるこの口あり。
取逃しことかとてー。ぐんよやりとすまべ[大々]されバ
でできる。むすめが通ゐと身のうえをあられるのれーぬ
の果とむーがうをいとやさ放よ大よあやまりま
しさ。あの母ゐる氣の短い人とハ為ごどよりゐの長曲悟
よ。あんまりこまをとりく。ちやづりまーさら大よお後ゐべ可
さ。後舎をとうちまくトさまてどいふうーく。さうとハあり
かうまいだでアも。たまべあるものごと皆たまこ可
さといふ事を関ー居さゐまん方ども。その為り。人をだ

まそのとかゝりくも向ふよも長神さゐがこざる。どりこ
いそふい虎の皮のふんどをあく。油断せぬものをゑ
とまくく。兎角主理よ大舎をりけんと願ふりハ地
道の家業を出精まて。律儀正の世渡りを工夫ゐされと
あり
かゐゐ草本ども主理をせよ。人の物を喰ふんだられと。
かいくくまぬ。たとひ。悪黨者の事をかいく。主理非道
をいとせるとも。後ゐハ悪ごくハ由ゐ兎角居をせ孫ど。
福徳も安ゐもまいとかゝ孫べまらぬ。是ハ天地自然の道理
りまく。人とまくくハ居を孫ゐハ孫べまらぬ考ゐり。人ハ

行ふ行ふ善をすとあり。人間は善を行ふ者の者多り。も一善を行ふべき人間仲間あらざる。畜生仲間多り。

扨らん急度善を行ふべく。うそいつわり。人をだますこと。変まくまくさまざまと京の大名も。金ゆゑ有りのまりく。

扨山ゆゑ江戸へ参りどうよ来て者多り。何まいもすいも

孫知の人多り。喰業屋女郎義者よりまぐ。あさりまくの

金ゆゑを取く。扨ゆゑ。二年も三年も江戸に扨んぐ金

ゆゑを出し保養をくらん者を業屋女郎を初め。唯だ

まく金銀を多く取んと不実の事をたくみ多よ天

じも。如持ゆゑ早速に帰る氣に成り者

い者はいざまらぬ。かやうに功を積る金持は女郎義者ど

りのだまくをくらんよあらざ。城の智者金持は女郎義者

どもの。及ばざるところあらざ。ひとりよりあらんば。かくのごとく

取るゆゑ。唯ありの儘に欲をとられく。扨ゆゑ

かくのごく面白く思ひく扨ぶゆゑ。愚者若イ者野夫と交

一風遠ゆゑ思べし。たとひ女郎義者たりとも。唯人をたゆて

金銀を除斗まりしる中に。始終ろ〳〵からざ。求るは大

ぞんをきる人多り。いろんや正義正道の商ひ以外何事ゆゑ

ぞ。理非道をおく。分量ゆゑ。よけいよりゆゑは大事事

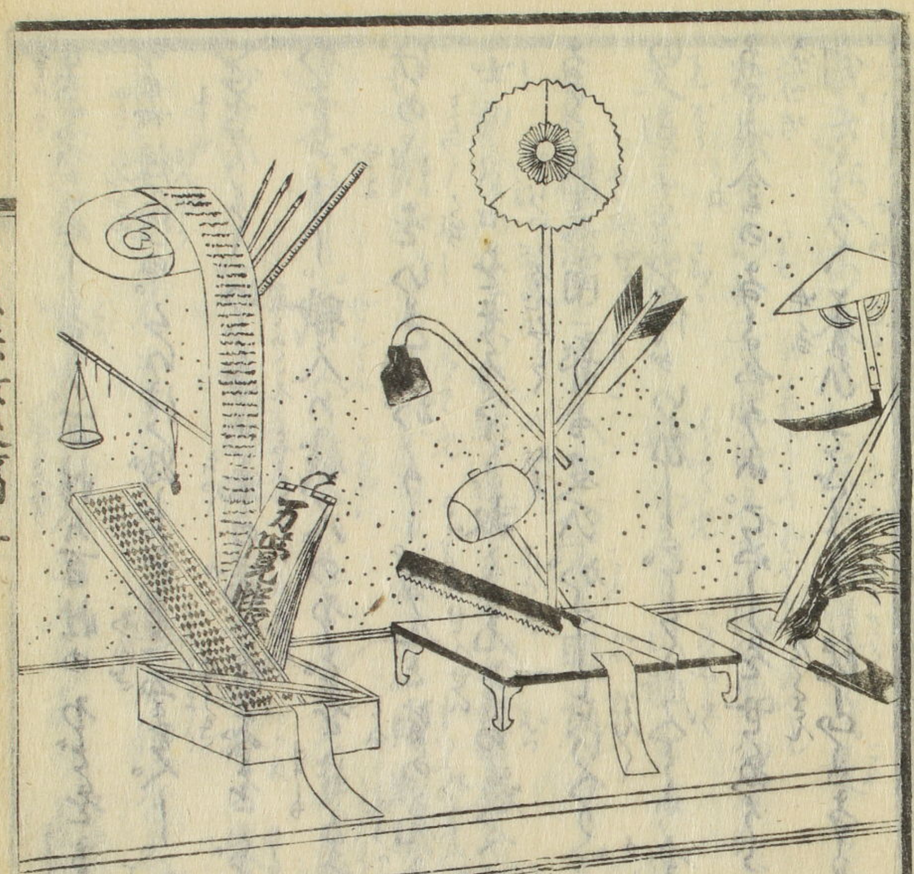
矣之孫儀の本とおくべし。義よりいらぬ事をけ人をだ

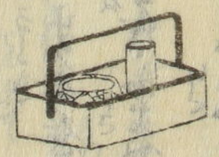
まつたくよろこぶ。餘年よりかぶる。大ひるそんとの事。
をさらせんが為に長物がるを去ると者ゆ。此事をよく
合点して。大欲を道に改まらば越もとべらまど
一切の女郎買に若る此元山が大きをたまもとゆ仮こゝ。
をとるべし。誠にあるべし。たゝこゝろ。是は元山だより
よあらど。一切の女郎。皆かくのごし。必ど油断もべらまど。
此方にあまたこゝ。誠がつくと。ぶつかたひるる間遠ひまり。不
まつても。深ゆるし。只金根に事を誠あり。川柳が句に氣
よあまたこゝ。とは山吹の。えの事。と是はくくさとるべ。
大坂新町に其様に器量はよくまるを客はよく取

女郎あるいはとは人間ひるる女郎のまい。女郎
あれども客を取事。みるゆ。あまた客をよく取は何ぞ
口傳秘密ありやとゆ。女郎笑ひくいの女郎ぴこゆと
いつくも。何もむがうに事ゆ。只客の事をよくのこと
んぐ。其客の氣と。あるまるゆ。どうらくの。跡を見
ぎくまば。あまたの女郎。人がすれたおや。堅い者はきらひな
きらいやといくも。是はあまたがとよく合かまて面白
いとおもんぐくる。又堅い。おまるゆ。人がこまば。私はあまたへの
女郎。堅ひ人がまば。大事者。どうらく者はきらい。宋
がはまらぬといくば。是は此方のまゝろをよく知る

面白いとおこんぐるる。色ようぐくも。何ぐも向ふの意性なる
調るをあるせく。夫をあると皆お辺ぐ来る皆うあ恨
の。客るれば。其家をうくのくまんぐ。向ふの気まいるう
ま。とるだうるりと。いひーとまう。ちくあ方まる女郎
ハ。皆かうる。者るれバみーも他郎とる色うくどすい
たのあまとこのといふハ皆うそるり。只今銀ぐ弟紀あと知べー
京傳が戯作問答ふ問くいるらく。金の生来といふハ何るりの
ぐ。ごぐるハ。答へくいるく。何るまく。先武士の金の生来と
いふハ。文武両道るり。百性の金の生来ハ。勧徴縁の。たぐひ
まり。職人の金の生来ハ。のくかんあ絡のたぐひるり。商人の

金の生来ハ。そろばん帳面るり。ろくれどもこまてこ二年をよく
ちく。朝夕ろを付くくろくそぐく稼べかねの実ぐ色ぬるり。
是ま妻だちあり。弟一うれ女。弟二大酒。弟三ろくふぐい
弟四夫婦げんか。弟五朝寝夜だるー。弟六百性商人の学
文だく。是ぬハ金の生来をかくまと的茶るり。又金のまる
木のこうやーといふハ。遊悪也。ようく悪を去る目うる是まべ。
おたふくも。揚屋紀小町とうく人。掃除ま極ま磨がーも。立
田山の紅葉とうく人。恋ぐるる四角る月も。焼猪山の田毎
の月もまる目ハ。同下事也。こんまくくの白何くもぎろひとえ
えだぐまぜも。きまととくくる。是皆悪の徳ま去く金の





是ハ士農工商の金のきる
本の生花と見て。ハテめ
づらしい生花ぢ是ハ商人
の生花と見て。かるわど
のさんどの金のかる本の
根じ元いやるろくんと帳
めんぐくのうち是でんすの
すへの水ぶくろがさんい
ろ紙ぢ

生業のこゝろゝ。百姓の百姓のわざをまもり。ひくぎる俳諧の安行持の。こゝ法ばしを。遠ざまとべし。町人の町人のわざとまもりく。いとぎる菜の湯産業をぶけとゝく孫店かとぶゝ。職人の職人のわざを守りく。花生筒よ。日げけの掛をいとてるがゝ。るゝと。皆の元そふぐゝ。きゝかとゝく心皆くゝ口をそろくく。叔くゝ先生の教く古今希る秀歌まり。祖系南郭も及ひがゝとゝいり

いさまよ京傳がいゝ。ごとく。人くゝふ金の生業を持くゝ姑ゝ。金のまゝ安うゝ。こゝを世ぬゝ。金ゝ生業ゝまり何とそゝうく養ひそぶくく。此山よまゝ安うふ紙とゝぶ

武士ゝ金の生業ゝ。文武両道まり。是をまゝく歩くと。諸人乃難儀を助け。百姓町人万民の安ゝこゝとかゝよもとべし。是天道ゝまゝ。職をまゝ。此職をまゝ。此職をまゝ。考ゝ。天まり福録をまゝ人ゝふ事。眼前まり。是を天爵といふ武士の金の生業也。非道の悪人を罰まゝく。正道の善人をたすけるが。武士の職まり。此職まり。賄賂を取く。悪人のひゝきを疑ゝ。善人ゝ災ひをと。こゝを奸盗武士といふ表ゝ。むゝひゝまゝ人ゝも。因僧ゝ盗人也。金の生業ゝ。毒とけく終ゝ。ゝゝ矣之ゝんぎまゝまり。此乃理をまゝどゝく。まゝゝゝゝ。をゝけゝゝ。ゝゝを。ゝゝ人ゝ。此笑ゝ。大ゝ等遠ひの

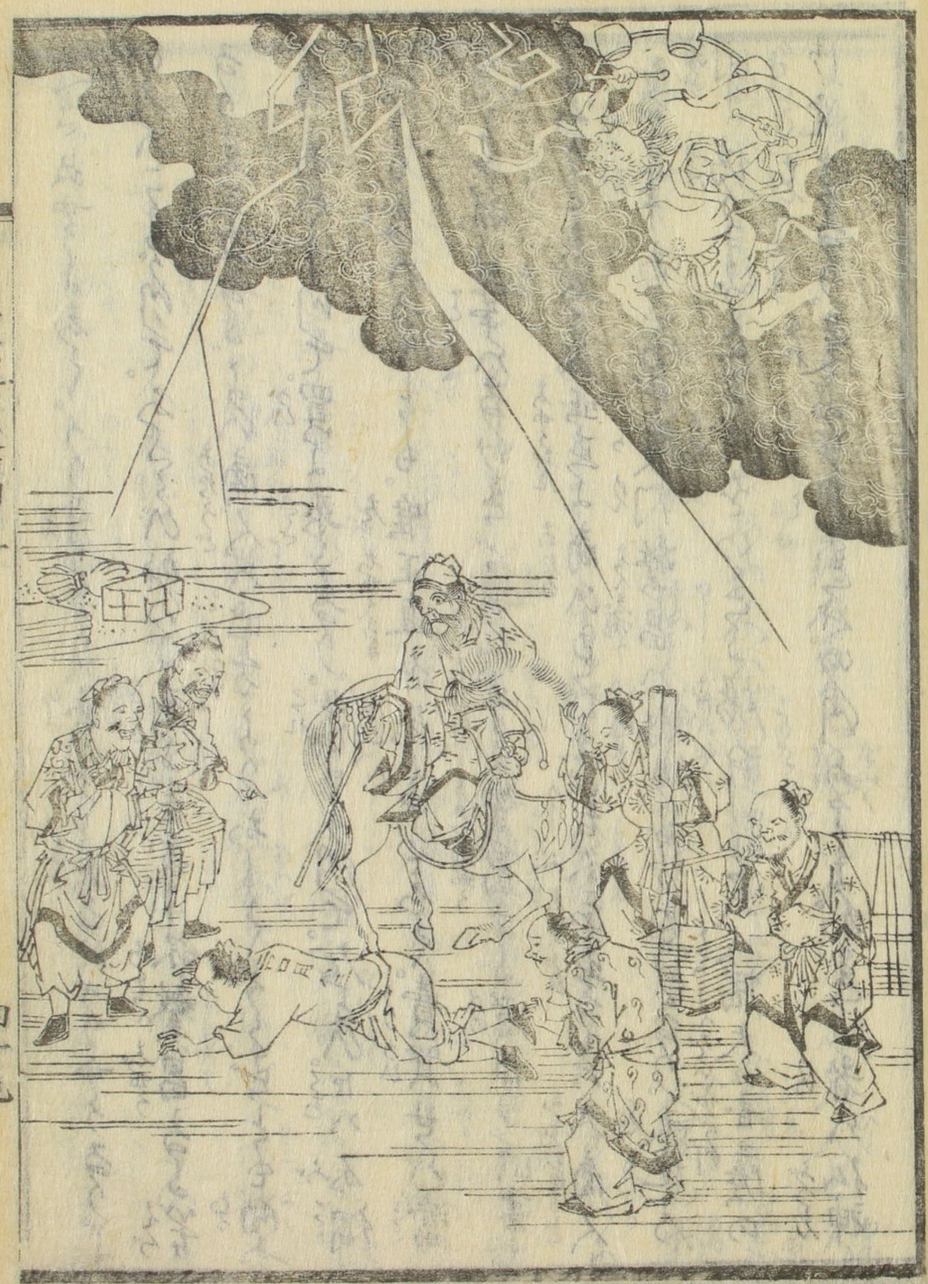
人々すくなく。若あの掛もなくてゝ人のされきる代なる人
なり。大悪當者なり。何卒武士の道をよく行ひく。万民
をあんじ。金の生来ふこゝろを致し。福徳多満の人となる
べし。又百姓の金あるなる本といへども孫の数なり。田畑
をよくこやし。他をよく。貧を侍上人上絶致し。其他分をその
上の妻子けんぞくをよく養ふ。是を百姓の金の生来といふ。
不ふるく。百姓ぐあるなるべし。武士の眞似をまねる山事をまた
り。菜の湯飯酒肴をよく。なぐてるかふ。金のなるまへうれ
く。貧乏猛俗となる。何卒百姓の分をよくまもり。田
畑をよく耕他を致し。妻子けんぞくをよく養ひ。

くよくなるべ。たとひ身をくるしくとも。仏神の御目から
ば後なるべし。心の清浄。人品骨柄上人あるべくとぶ
あ並べされん事。疑ひ者。又大工職人の金の生来。猪り
のこゝろの新なり。一切の道具を作りく。万民の用を達を
なる。ふるよあ一紀乃具を他りく。あくひを高くとり拵
てだまもとる銭。又世くまく。仕事をもの時の朝の遅く。
体をく長く晩の早く仕舞ひ。一日なまけて居なるべ。作料へ
よけいのよ。天の道よりなべまく。金の生来をうるなり。
何卒人の為なるなるよ。そてこらいく。百料へ隠なとおス
く取ほとべ。是金の生来よ。こゝをよく。猪徳を生長

もるの法也又商人の金の生ずべ。算盤帳面掛そろり刀尺そろり
世界の物を交易まく。あるまの物をるにまの人はそろしく。
万物の通用ならく敗し。徒人の助けとなるなり。世界中万
べんよ。ならくるをそろうんど。不お義の高利を取るまど。一切
よ賣買まるを商人の金の生ずべといふ。あるまよぬけ者をかい。
道まらぬ。うりかいをまく。大金をあけんとまるまう又の人ぶ紹
ぬと思ひて掛そろり。刀尺よ仕うけを敗し。不お義の高利を
取るまど。ふく。まろしまるまど皆金の生ずべをかまとんまり
川柳が句よも刀尺よぬひ所のある掛原といふ。江戸の
柳原といふ。古来古道具屋の又世あるく。旅人又

い新糸着黒紋者をだまくうる所あり。刀尺をそどく
まく。きつあよぬいにげといふ又掛掛りるどよ仕うけを
しそうるまいらいさく。かろく。敗し。かのまん大く重くする
を二掛きひ二掛り。きひといふ。皆盗人の部よまく。偽ろ
よい商人ハせざる所あり。ままん大損の道あり
堪忍紀よいまく。のろこ。異の世よ商人あり。市よ出く物を
賣る。夏の事まが。俄よ空かきくあり。白雨まく。かまあり
おびただしく。ふりまう。天地ならやくのどし。法のまうまあり
市の店よ落まり。商人うたまく。死けまそ。その背中よあ
き文字あまん人くまのまくまるまよ。ふるまよ仰く生ず義理ま

うらぎ。いうる故ゆうんと。立ちどころ。ちるまゝよ。ゆる道人馬
のりるのごと。これをもちく。ゆる持る鞭を。その文字よ。ゆ
ていうく。二口月八三とあり。この六字よ。竪の点を加へて
見まゝば。市中用小斗といくる文字なり。かゝるりの為ゆう
こまく。死くこの恥を。あらゝ〜けりとなり。林ちう刀尺
祭るよ。ぬいあげをもまゝば。現罰あるうく。急難急死よあらん
事。疑ひなし。変ちく。不法不律俗を致さゝからゝど。唯正直
る家業を出精をゝべし。願ちゝどゝく。七珍万寶来らゝべし
今世界の商ひ。上ゆとゆう人をゝるよ。性能弁よく〜人をゝる
くゝゆけんとちる人多し。若一寸ゝゝ。直を聞くる人をゝ



逃さぬ世うよ[illegible]。うり[illegible]ふ[illegible]く[illegible]るれうり[illegible]。よい人へこうぐ[illegible]て。ふこびかのよ[illegible]る事ヲ一ツ繁昌する者ヨり。又正直なる。よい商人へ此方よりうちーく。うりどとも向へよりわやまりて。買よ来るもの。是よりて。たとへ口ハ不調法ぐも。ないうとも。唯正直を元ゝとして。貴賈せバ當人へ。ちゝ孫ゝ事ハ為けまでも。次第ヨ繁昌する者ヨり。此事をふうとおもく。正直ヨ商ひもとべー。若不正直ヨ商人ヨるる事あるとも。家門繁昌ハ[illegible]間ヨ偽りまうぐまる者をいまる場ヨり。天地ヨ恥ぬ。八幡大菩薩の[illegible]。

ヨ捨らまでとうむ世のヨ[illegible]人ヨり。[illegible]ぶ人也大商人。大金持のヨ[illegible]んと。ゆの人へ此道理を。深く。ヨ得く。[illegible]ヨ安くうるべー。我身を惜く。倹約ヨくくー。人様の物を。隨ヨと。取ぬ世ヨ[illegible]。肝要の。ヨ得ヨり[illegible]人ゝ世の物をヨ[illegible]。親ヨ兄弟を始世界の人ゝも大ヨ和[illegible]天地の神ヨ[illegible]。此世へ不仕合ヨ[illegible]。後生へ根の國底の[illegible]ヨ落ん事疑ひヨ。一切の人ヨ向ふ大欲をかゝこき。世界中の人へ。天地の神明ヨ憎まれて。不仕合がよいヨ。又小欲ヨ[illegible]く。世界中の人へ天地の神明ヨ可愛がられて。仕合のよいヨ。好ヨ。[illegible]く。動へく。人ゝの好く次第ヨまでべー。くどくへいうもぬ。

あらハ世俗やくゝよ及ぶこと
人〳〵福德安樂なるを法を持ちて理を為く貧乏窮
俗するハ佛念和尚聖人の教へに隨ひ
て。欲を少なくして。若しこれハ法厚
みなる。福德を天より生授けるゆへ是金の有る
ゆへ。こゝを為く。金の實を決して取るといふ人有り
○月雪も花も紅葉も。錢金も。家財も何もそなはりてとまる。
○貧人の。ものをそなへ。ものゝ用をせよ。
外を求るよ及ばざる人〳〵金の生涯を專ら絶ち考へ。是
ゆへこゝを為くと毒を為くるとの二ツ有り。山賊ハ家業

を出精為く。ものゝ。人〳〵金の生涯をもとる
人有り。又貪欲を起し。山賊を絶し。色と酒とを好く。朝廷生
涯ハ為く。何事よりも辛抱なり。万事よりおごる。あゝ人〳〵金の生
涯ハ大毒を為る人なり。いかゞも。金の生涯ハ。かまどふしよりも
て。一生矣迄神よりせめられ。色と酒と薬との。毒和を為く動く。金の有る事を養育せバ
○貪欲と。色と酒とよ。朝廷生涯せバ。いやがるとも貪苦来る。
○福德を。為くゝ。山賊ハ家業なげめバ。福德ハ来る。
いにしへ武士ハ武士の二字を。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
百姓ハ百姓の二字。職人ハ職人の二字。商人ハ家醫者儒者ハ

ゐるなど二家をはじめとして数かうよりたぶべし。武士の武士らしたがはし。
町人の町人らしきがうの所をもとるもよろしくまろしくまろしくま

繁榮せむ一時富貴と得べし。各〻家内の者
共へ教へよと　上意なりしとぞ

よろづやどゝ未まうぢ木おひふか木

かせ木　つゝふのあや

様子夫の食のあるを本とす。格別なり。よろづやどゝ
よきをて一切の善道は中ほどなり。中道なり。
中道は賢人君子の通りなる道也。堯舜禹も中道の一つを得て
て一天四海を安くと治めなり。是天下の大本也。仁の事なり。

なれど中なるをもつて善くは十分よきを道といひ、こゝ中道
は善なり。善道は食の生来の心本也。善道は食根財宝快楽安
穏は付物なり。是を食のなるを本といふ。是も正直と慈悲とを
以て。守らざるべし。食の生来ごこゝろ。正直と慈悲心
が善くは。万事邪行魔行と成て。始終成就しがたし。よ
ろづやどゝよきを中道と慈悲とをもつて守りそだてまべし。万
事さるなり。食のなる本は成長なるなり。されば七珍萬
宝も皆仏性なるなり。何事やどゝの花中道を行ひ人是よ
枝葉なるべし。猶く。大上〻吉の食のなる本となるなり。万事揃
たる福禄寿の人といふべし。枝葉の縁起はなるべし及ばど

くく考へまろべたるゆり。扨又は世界の人は苦充満するゆゑ少しも安心なり。苦くるしむの世界なり。此事をよく知らざる人は世を恨人をうらむ。愚癡を起まく。猶徳を失ふなり。是ゆゑに苦の土といふ事をよく〳〵まろうく。身を脩めみを正直にまく登夜くるえんぐ。勧めはとむべし。楽と又其中にあり。勧めさらちまどまく。楽こといふのハまたとまろべし。又何事も苦ふ世界なり。一切も四ツ世の中なり。此事もこくまろうくふしまべし

○三度くふ飯さへこまるとしたまふ。まらぬ世の中

○世の中ハ月よむら雲花ハ風秋迦ハ提婆ハ守屋

○世の中ハ月よむら雲花ハ風鯉ハ棚排鯨ハ燻なり

此歌ハ世の中ゞどのも苦ハ苦なり事をよんゞ者也人間の難儀苦労の何ものをうんゞ者也是ハ人間の八苦をうんゞ者也八苦といふハ生苦老苦病苦死苦怨憎會苦愛別離苦求不得苦五陰盛苦是を人間の八苦といふ生老の苦もあるべし。又病死の苦ハ又〳〵大ひなり。是程あるべし死苦ハまたと知るべし。扨第五の怨憎會苦といふハ色角恨のある人や憎ひ人をあ合ふく。どのもまらぬといふ事なり。第六の愛別離苦といふハ。一所に居りたい人や。可愛とおもふ人をハ。よくくらしてゞふ

あるべきといふこゝろなり。第七に求不得苦とは。ゆゝしき過ぎりと
めらるべき所の苦なり。何にもたらぬ事だらつく。不自由勝なり
是ぞ求めく得ざる苦とは。是いかくしくある苦なり。第八
五陰盛苦とは。此の七苦い別に此苦は總名なり。色角身がある故に。色なる苦がある
る。身がなるべき苦をのがるる本なり。身經なれば。身がある故
に。病あり。死がある。憂がある。憂とは成狂身がある故に病が
出てくるなり。八大人覺經に。身は生老病死ありいがまも苦なり
心は貪瞋癡慢あり。惑く煩ひをなせりとあり。くも苦遠
なり。此八苦が死と生とをなれ付く。居く。なんぎ苦がけるなり
法華經にいはく。三界は安きことなし。猶し火宅の如し。諸く

の苦充滿して甚だ怖畏し。常に生老病死の憂患あり。く
のごとき等の火熾然なるがごとく不息如来已に三界の火宅をはなれ
く寂然として閑居をとゝのへり。
此五人。欲界色界無色界の三界の内へいがくるはけるとも苦乃
なる死取なり。元この苦はせめらるく事。たとへば火の付く家
の内にあるべき奥も端も皆あがきごとく。六道の内いがまも大
苦悩はなはだしく。生老病死のなるべの火。さくのあくく
八苦の人をなく。其中に。如来ひとり三界の火宅をはなれ
寂然と。なれなる。少しのうまのもるく。安心にほ座なること。
いつもの也。安心のうまとはいつの如来だからなり。其外乃

者たち皆悪く大苦患あることいく事多り。
○うゑ事ゑ品ゑ〻かゑを世の中ゑ心安く〻住人もゑ。
上　天子ゑゑ上下元食ゑゑゑゑゑゑ苦のゑい者一人もゑ。ゑゑれ
だよゑゑ貧く。いひ事あり。ゑるけまゑ。ゑるゑゑ付く〻猶いひ
事あり。何家の家よも。いひゑゑゑゑゑゑ一軒もゑ。餘家の
ゑ見るゑゑ何もいひ事のゑゑゑゑゑゑ

のるい苦なり。是則五濁悪時悪世界なれば。仕方がるい人間世界
は。地獄の隣なれば。大苦患大苦悩なる苦とゐるべし。そもそも
生ゐ老病死の苦常あり。どうもゐるくもゐるくも。苦くくの世
界なれば通さうも逃かうも。ゐきさと知るべし
○愛をゐるく。又別生ゐも。かくあらん同じ浮世よ。同じ身ゐれば。
○一節よ。公定めよ。濱ゑ鳥。何処の浦も。波風ぞたち川。
○波の音。さうどとぶへ入ぬまくべ。苦へ色かゐる。松風のこゑ
氏知へ海邊よ住ぬべ。ゐくこのきがどうくときこゐる世よ。こうんな
さうどくしき変かいやきやとぶひく。ふへ入くゐまくべ。又松風のこゑ
がさうどくしくきく。ふゐう風。ふきべいがくよ住んでも。苦ゐん

ゐるきと風といへ事なり。何ゑへ行くも。苦のゐへとゐるくくは是ゐ其
苦ゐり。何ゑへ行くも。飯をたべ。茶湯を呑く。其上で一盃呑ふ
とゐいうふゐく。苦いある苦ゐり。飲どゐもどよ。居きべうけき
どもものくひとるかう。何所へ行くも。苦へ付物とゐるべし。孫ゐけ
先生の狂歌よ
○世を捨くふ。ふよ入くも。味噌醤油酒の通ひへゐくくゐまへ。
又ある人の狂歌よ
○世の中を通きくくりくくふ住も。我口端の。世話へのがきで
夫も一日ゐ。一度ゐ二度ゐらいゐうよけきでも。三度も五度もた
べるうふ。たくさうゐの。其上よ。又一盃のうとゐへからゐくふよ入

大かぐら

ても隠居しくも。世活も苦労も下る筈なり。のくらひさへ世話
ば其後は世活も。苦労もるつけまども。飲喰をもるから。何の事へ
行くも苦労も世活もあらとまらべし。況や其外の者共へ矣
衣の上へ。身分のよい物をたべ。よい着物を着。よい酒を飲ら。
くふしまくの苦なり。昼夜のくれぐれ出くらる苦なるから。出
入の動定へ。あらゆる苦なり。着たるきくへだをきとる。くの
てへ。又くのく。渇食を取まらしくだり居る。第一の苦しき
此くへ物なる事なり。衣食住の三用といふけきた。此
喰物が第一の苦の本なり。（三編の）きんの聖をくくく知べし。又第一の入用なり。
軍学へ。名将をくく。名城へ楯籠り。軍卒百万ありとい

ども。兵粮なる死時へ忽ちなるべとあり。是へ此通りなる。喰
物なるくへ。名城も大将も役へ立ると知るべし。号令も教へも。
外面へ知るべし。一切生ある者へ。よい物をくく本とする。
喰物へ命の根なり。夫なる米を稲といふ。い稲へ命の根といふ
事なり。中臣の祓へ。畏紀へ。くくなり
京傳が戯作問答へ曰。世のことなるべ花へ国
子。色紙なり。ひけと。申もとぶ。かなるる道理もありや。第一
なりたし。京傳苦へくいらくさまべひと。毎日あくせく
とかせぐも。生まる所へ米櫃なるの陰利益へくく。日々毎
の活飯を楽くとくなるへ。為なり。孤も嵐の中なるあげく命

を失ひ。たきだめでいぐさあふ犬い。もとり二束ぐらぶたまぢごく
落しまかる。移りこもぼりおちるまかる鼻も道理に同じ事也
十王ぶくろんぶんも。くとふぶ為ゑり。ゑんま猿よも。鼻の下のこえ
ろあり。豆腐屋の家根よ。ちぶんぐ居るとんびも。日のくまよ。部
屋あいより出うける。かふりもの。口をかせぐんぶ為ゑりかぐや死
の匂ひに十種の香ちりもたゑをうぐちてんぶらのあぢくひ
まい。ちやくちのそこをたくきさかもゑんぶん白玉のまるこん
いやもこぶゑり。まこと品くだりくんぶらんまやくのちぐん。
大福餅ありくさいかきいもやきぢ。かたぢるめも。皆お
魚よ好む変あり。九幸かりぐ悟りをひらいこ。達磨さゑぐも

くちびりまい居ゑまぢ。あら紛せりまこ。交覽上人くも。一生飯食
ハゑ。ゑうもぢたとひ吉野の花ぶいわどえ事ぐも。ひぐらい時ま
い。本のあやめだんごまあるぢかうきひや。小町ぶ。何猛うりく
あくくも。猿の角りと時のまたそぶ。てちいまいゑるぢ。花ま
まだんごいろけゑり。くひけとい。此あ申ゑり。かせぐまこと
とあふい。理ゑり。隨分とかせいぐ大飯をくひまくとあいろ猛
京傳ぶいひしまる遠ゑ。お飯をたべぢくい。何のゑるもの出来
ぬとゑるべし。時猿がまいうゑまくいろくゑる。たゑ言をたく時猿
ぶひぐるくくまい。一言あるい。花ん也も拙山も色事も。少しも生ゑ
し。唯くいたいくくだりまり。夫方よ於よも。ひぐるさと。さむ

さと。高とくらぶれば。恥らしき事もとゝ。
むかしの万葉。代歌の通り。ありこまよりけく。三度の飯を。や
もくと。たべるわど。わうがうに茅ハ多くとあるべし。御膳ニ向
ふたび無ニ。三度も五度もいたゞきいくべくあるべし
しかも一生のもり米をもいかゝとあるとゆもあるし。又沢庵和尚
の答和歌以て楽ニの身一とあるといふもあるし。又松平紙中候
鵜の尾の清涼秋又豊華系の篠歌抄巻こゝの巻大長巻

右三編終り

日用心法鈔後編上終